

山陰仏社会報

# Sō-Sō

[壯創]

第16号

山陰教区仏教壮年会連盟会報・第16号

【編集・発行】山陰教区仏教壮年会連盟事務局  
〒690-0002 松江市大正町443-1(本願寺山陰教区内)  
電話(0852)21-4747 FAX(0852)27-8351

## 山陰教区仏教壮年会連盟総会 及び研修会について

理事長 村上 勉

六月九日に開催しました総会及び研修会の概要を報告します。

総会につきましては、八十三名の参加で開催し、平成二十九年事業報告・決算報告を行い承認を得ました、次に平成三十年事業計画・予算を上程し承認を得ました。

質疑では、会費納入及び加盟単位会について、活発な質問があり、執行部として気を引き締めて執行に当る決意を述べて総会を終了しました。

午後からは、連盟講師大原瑞雲師を迎えて研修会を行いました。

今回の研修は昨年までとは、一味違った研修であり、何処に阿弥陀様に接するかを具体的に話して頂き、日常生活における行動に対して、適切な説明を受け、参加者の皆様から充実した研修会であったとの、感想を多くの方から頂きました。

課題としましては、参加者が八十名前後であり、減少傾向であり、参加単位会数も減少しており単位会から最低一名の参加があるように、広報活動に努めねば成らないと強く感じました。

## ◇中四国ブロック単位会結成に向けた研修会◇

二〇一九(平成三十一)年二月二三日(土)に四州教区受け持ちにて「中四国ブロック単位会結成に向けた研修会が開催されました。会場は香川南組妙延寺、講師は仏教壮年会連盟講師の高橋哲了師でした。

研修会が始まり、仏教壮年会連盟理事長宮南靖様より仏壮と出会ったきっかけや仏教壮年界における思いなどを話され、続いて仏壮連盟組織拡充委員の森下洋壮様より研修会の趣旨説明として、単位会結成に向けた研修会を十年開催した中で成果は上がっているが、近年の退会数の増加により単位会の数は開催前とあまり変わらない状態であると語られた。よって、来年度より単位会結成に向けた研修会の内容を改め「仏教壮年会セミナー」として新たな研修会を開催すると説明された。

続いて香川南組善福寺仏壮会員の大林徹様より活動事例報告が行われました。やはり仏壮が活発である単位会は、

他教化団体との連携が取れている印象が強く、仏壮の方が研修の際にうどんを打ち、ふるまうという香川ならではの活動を語られた。

しかし現在は活発に活動ができていない単位会も、後継者問題という壁にぶつかっていると話され、数年後同じような活動ができていくかはわからないと不安も語られた。

その後別別討議・全体会議が行われ、参加者の中には単位会未結成ではが寺には仏壮が存在するという話もあり、そういった団体からは「仏壮に登録するメリットは何か？」という声も出ているという。

今後は拡大も大切であるが、組織の充実も怠らず活動をし、教区内役員を中心に、魅力ある仏教壮年会に育て上げていけたらと思う。

すでに単位会登録をしている参加者、未結成寺院の参加者が、それぞれ違う立場の中様々な問題に目を向け学びを深められた研修会だった。

フロック研修会報告

山陰教区鳥取ブロック研修会（仏教壮年会）

因幡組 小畑 厚

平成三十年八月二十六日に鳥取ブロック研修会を実施。参加者は、伯耆組と因幡組の合計三十八名に加え（講師・教務所長・教区理事長・仏壮担当者・会所坊守・正栄寺住職）の合計四十五名での実施と成りました。

鳥取ブロックでは、因幡組二回・伯耆組一回のサイクルで行っていて、今回は鳥取県の東の端若桜町（浄善寺）を会所での開催と成りました。講師に因幡組浄徳寺（吉岡義信住職）テーマは「お仏壇どうしに必要なもの」

- ① 誰を対象に手を合わせるのか。
- ② 手を合わせて何をしているのか。
- ③ 仏壇の前に座ることに得られるものは。

お仏壇って何なの（お浄土という世界のジオラマ）須弥壇（須弥壇の上は正常な仏の世界、下は地上世界）仏教の宇宙像・曼荼羅世界・家庭のお仏壇等の講義を凡そ一時間半あまり頂きました。

その後昼食と成り、僅かな時間で



有りましたが、願正寺坊守さんから、キッズサンガの説明がなされての話し合い法座を行いました。午後は分散会で有り、四班に分かれての話し合い法座を行いました。各班からの報告は有りませんが、記録者から頂いた纏めの記録書を参考に主な内容をご紹介します。

①ご本尊・阿弥陀様・ご先祖・無く成った家族・等。

②今日も有難うと感謝・南無阿弥打仏・何も考えず感謝の気持ち・習慣に成っている・今日一日感謝の念・讃仏偈を唱えている。

③安心する、気が休まる・お経を覚えらるる・満足感、感謝の気持ち・心の安らぎ。

又その他の意見として、仏壇に手を合わせる、子供たちに自分が手本を見せる。懇親会をして門徒間の親睦を図る・門徒としての意識づけ。阿弥陀如来様の心の救いを求める場・子供の頃寺で遊んでいた為いつも身近にあった・先祖のおかげの気持ちをもつもの。等々あり。仏壇のイロハという本、お墓は納骨の場

所であり仏さんがいる場所ではない。講師の纏めで。

仏壇というのは、そのような浄土という世界観をこの世に生きる我々に教える装置。

予定通り無事に研修会を終了致しました。

最後に今回の研修会を通じてお仏壇というもの、知りえなかった事やお仏壇の大切さが少しでも皆さんと一緒に勉強出来たことで、今後の仏教そして仏教壮年会への関わりをより深められた事は大変有意義だったと思います。

参加して頂いた皆様に感謝し心よりお礼申し上げます。

「南無阿弥陀仏」 合掌

出雲ブロック仏壮研修会報告

飯南組 乗空寺 安田 博

平成三十年十月二十一日（日）出雲ブロックの研修会を、道の駅とんぼら（やまなみ）において開催いたしました。当日は九十四名の参加があり会場もいっぱいになるほどの参加をいただきました。

研修会では比婆組西教寺住職藤井義英師より、「ご親教「念仏者の生き方」のお心を体して、今、

ここで生きると題して御講話をいただきました。

自己紹介の中藤井住職さんの西教寺は庄原市高野町とのこと。昔から行々が盛んだったように高野と頓原を跨ぐ草峠という山を越えて行商の方々の盛んに交流があったそうで時にはお嫁さんの縁談をもってこれれ頓原

# 石見ブロック研修会報告

江津組 仏壮連事務局 森田 勝秋

石見ブロック大会を江津市円勝寺にて開催。

今回の講師は安芸教区徳行寺住職三カ本義幸先生です。講題は「魅力ある仏壮活動」について講義いただきました。

午後の開始前で、子供の声が聞こえる実践活動として十七名の江津パフォーマンズスガールによるダンスを本堂で披露して頂きました。一



時、本堂は親御さんを含めると一〇〇名超す参加者で埋め尽くされました。

初めに、「ご親教「念仏者の生き方」を段落に分けて講義を受けました。

「小欲知足」「和顔愛語」ありのままの真実に教え導かれて生きていくことに気付かされました。「生きているつもりでいたら、生かされていた私」ではないでしょうか。

「魅力ある仏壮活動」の特効薬はなく、会員一人一人の活動が求められています。

見知らぬ人がお参りされた、せっかくのご縁、お参りの仕方も一声かける事でまたお寺に足を運んで頂けるのではないのでしょうか。

探せばいくらかでも綱領につながる活動が出来ると思っています。一人一人が身近に出来ることから実行すれば良いと思います、すぐに「高齢化、住職さんが」に流されていることに気がつかねばなりません。

御消息の最後に智慧と慈悲を正しく、わかりやすく伝え、その心になうように私たち一人一人が行動すること。

各地で開催されているお寺の研

のふもと宇山地区がありますがこの地区に高野から数名のお嫁さんが嫁がれています。

今回の講話は平成二十八年十月より平成二十九年五月までの伝灯奉告法要を第二十五代専如門主のご親族「念仏者の生き方」の文章についてご講話をいただきました。

内容を説明の前に今回は文章をみんなで朗読を行い所々で藤井住職の私話を交えながら説明をいただきながら、私たちに苦悩を超えて生きていく道を教えてくれるのが仏教である。煩惱はむさぼり、怒り、おろかさの三つでこれを三毒の煩惱という。しかしこの煩惱も親鸞聖人のお手紙で、あなた方は今、すべての人々を救おうという阿弥陀如来のご本願の心をお聞きし愚かなる無明の酔いも次第にさめむさぼり、いかり、おろかさの三毒も好まぬようになり阿弥陀仏の薬をつねに好む身となっておられるのです。



あらゆる人々に阿弥陀如来の智慧と慈悲を正しく、わかりやすく伝え、私たち一人ひとりが行動をし実践運動の推進を通し、ともに確かな歩みを進めましょう。と最後にご親教をのべられています。

所作り、お寺でのコンサートなどそれぞれ企画運営されています。やれば出来るのです。

最後になりましたが今回の研修会に七五名の参加を頂き有難う御座いました。 合掌

2018年現在  
山陰教区単位数

組名	単位数
鳥取 因幡	6
鳥取 伯耆	4
松江	8
出雲	9
神門	9
出雲 南	10
飯南	8
大田 東	7
大田 中	1
大田 西	3
佐波	0
川本	1
千須 賀	1
邑智 東	2
邑智 西	2
江津	5
浜田	5
三隅	1
益田	2
鹿足	4
合計	88

去る二月十六日(土)・十七日(日)の二日間、伝道本部と聞法会館において「中央研修会」が開催されました。

前年、山陰教区仏教壮年会連盟の眞野明政副理事長よりお誘いを受け、定年退職を控える念仏者としての生き方、そして、全国各地の仏社会の実態を伺える良い機会と捉え申し込みました。

しかし、出発を楽しみにしていた矢先に叔父が急逝し、参加を断念した経過があり、今回再度の申し込みをさせていただき参加しました。

研修会は、全国の二十四教区三十四組より四十四名の参加があり、「仏教壮年が求めるもの」と私とお寺と若者との縁のひろげ方」というテーマで、班別で話し合いをしました。

二〇一八(平成三十)年度  
仏教壮年会連盟「中央研  
修会」に参加して  
大田西組 龍藏寺仏社  
板倉満幸(釋教明)

班別の話し合いでは、寺単体の仏社会で活発な活動をしている組織と大田西組のように寺の存続も危ないところもある組織に二分されていると思われました。特に同じような過疎地でも、共通の悩みを直面している組織も全国にあることを強く感じて帰りました。

また、若者とは？ 仏社会の年齢についても話し合い、長寿命化と定年延長の中で、年齢制限の必要性について、世代交代のために必要という意見と、生涯現役で活躍していくためにもあまりこだわらない方が良いとの意見に分かれていました。私は、もっと若く行動力のある六十歳以下の会員が参加するようにしていかなければならぬと強く感じています。

最後にこの研修で、自分の法名をもっと使うべきであるということでしたので、初めて使用させていただきました。

今回の研修会は、色々なことを学び、今後の活動について考えさせられた貴重な研修会でした。

シリーズ 仏社紹介⑥

鳥取因幡組光輪寺  
仏社の紹介

壮年会会長 横山 茂

光輪寺仏社は県内では他に先駆け昭和四十三年に壮年懇話会として発足。その後四十五年には仏教壮年会と改称し、活動を続けて今日に及んでいます。先般、四十五周年の記念事業を行いました。

- ★独寺に取り組んでいる主な活動
- ① 仏社定例総会
- ② 門徒総参拝
- ③ 本山参り(御正忌報恩講)
- ④ 月例会

仏社発足当初毎月行っていた例会がいつしか途絶えていたものを平成二十七年に「月例会」として毎月第二金曜日の夜七時から再開しました。念珠の持ち方とかご焼香の仕方等の初歩的な勉強から近年は「親鸞聖人のご生涯」と題して時代背景と共にシリーズで学んでい

ます。勉強会後の懇親会では賑やかに談話しています。

⑤ 仏社・仏婦・若婦合同研修会

⑥ 夏の清掃活動

お盆前に境内庭木の剪定作業少子高齢化が進む中、仏社活動の今以上の発展は非常に厳しいものがありますが、五十年続いた活動の火を絶やさないう様、人集め為の雰囲気造りに日々工夫を凝らして活動しています。

最後になりましたが、今年の鳥取ブロック研修会の会所です。皆様方の参加をお待ちしております。



月例会の写真